

長子の象徴

ジェイコブ・プラッシュ

はじめに

第一コリントの手紙にはただふたりの人しかいません。アダムとイエスです。私たちは第一のアダムの性質を持っているか、第二のアダムの性質を持っているかのどちらかです。エサウのことは見ていくとき、私たちはこのもうひとりのアダムとの関係を理解しなければなりません。

人類学者たちによると、アメリカのインディアンは最初の人赤い男で、赤い肌の色をしていたという伝承を持っています。ヘブライ語で人類また人という言葉は“ベン・アダム (*ben adam*)”——文字通りには“アダムの子”です。アダムの名前はヘブライ語で“地”を意味する“アダマー (*adamah*)”から由来しています。アダムは“アダマー”から来ており、人類は地から作られた“アダムの子”です。一方、“地”を意味する“アダマー”という言葉はヘブライ語の“アドム (*adom*)”から来ていて、それは“赤”を意味します。イスラエルの土は基本的に赤みを帯びた粘土を含んでいます。中東の砂以外の土はすべて赤いので、彼らにとって地は赤なのです。したがって赤い粘土質の土(アドム)があり、それが“アダマー”であり、そこからアダムが出て、アダムから人類が生まれました。ヨルダン南部には“エドム”と呼ばれる地域があり、同じ“赤”を意味し、そこはエサウにしたがって名付けられた場所です。

長子と第二子

創世記ではこの長子と第二子の対比が繰り返されていて、長子が第二子のことを嫌い、それを絶えず迫害しています。それはカインとアベルから始まり、同じことがイシュマエルとイサク、またヤコブとエサウ、ヨセフと年上の兄弟たちに関して起こっています。年上の者が年下の者を迫害しますが、神は年下の者に好意を示すようになります。このようなことが創世記で見られる理由は、それがふたつの性質の象徴であるからです。あなたの中にカインとアベルが存在し、私の中にヤコブとエサウがいます。ただ**自然に生まれた**者が長子の権利とその祝福を受けるのではなく、それを受けるのは**第二の誕生**をした者なのです。イエスは『人は、新しく生まれなければ』いけないと言われました(ヨハネ3章3節)。長子の権利とその祝福を得るためには、最初の誕生は決して十分ではありません。必要なのは第二の誕生です。

誰かがただ母親から生まれ、水によって生まれただけなら、御霊によっては生まれていません。その人は神からの祝福も長子の権利も持っていません。将来はただ墓場であり、裁きです。彼らが期待すべきこと、また確実に知ることのできる将来は火葬場であり、しかもそれは火の始まりでしかありません。一方で、二度生まれた者は違った将来を持っています——その人たちは長子の権利を持ち、祝福を持っているのです。

人が第一のアダムのもとから生まれたとき、アダムの墮落した性質を持って生まれてきます。生まれながら私たちは神の愛を退け、生まれながら神の権威に逆らい、生まれながら私たちはあるべきだと分かっている姿になることができません。神は私たち人間を神のかたちとして創造されましたが（創世記1章26節）、私たちは自分たちがあるべきだと考える姿にもなることができません。そう分かっているのは、神の御姿に似せて造られたからです。

私がクリスチャンになる前にとりわけしたいと思っていたことが何かを思い出すと、それは出来るだけ多くの女の子と寝ることでした。それは私が十代であった時、大学にいた時の最優先事項のひとつでした。しかしながら、もし誰かが私の妹と寝たなら、私はそいつの頭をかち割ってしまいたいと思ったことでしょう。私が誰かの姉や妹にしていたことを、他の人が私の妹にしたなら、またあってはならないことですが**私の娘**に——私が誰かの娘にしていたことを試みたなら、その人を銃で撃ってしまいたいと思ったことでしょう。私は偽善者でした。私は自分の基準を満たすことも出来なかったのです。私は誰かに自分の娘や妹を汚されたくはありませんでした。その人が彼女を愛し、神の方法で結婚しないのなら、自分の妹や娘に誰にも触れてほしくなかったのです。ですがそうであったからといって、出掛けて行き、自分が悪いと知っていることするのを私は止めたでしょうか？私は弟が出掛けていって、自分のしていたドラッグをやってほしくはありませんでした。私はただ偽善者だったのです。自分の基準にすら沿うことができなかったのです。これは誰もがそうだと思います。

人が自分の基準を満たすことができない理由は、それが自分の基準ではなく、神の立てた基準であるからです。神が『わたしが聖であるから、あなたがたも聖なる者とならなければならぬ』と言われたなら、私たちはどうやってその基準を満たすことが出来るでしょうか？私たちは自分たちの生まれ方からして、その基準を満たせません。私たちはその基準に決して達せないのです。それゆえに第二の誕生がなくてはなりません。

第二の誕生

この話を見ていく前に簡潔に言うと、第二の誕生は単純なものです。人が最初のアダムか

ら生まれたとき、神に対して反抗しています。人はアダムの種であることを証明します。言い換えると、もし神がアダムとエバの代わりに「ジェイコブとパビア」また「メアリーとピーター」を造ったとしても、アダムたちと同じことを行ったでしょう。彼らに罪を着せるのは簡単ですが、私たちも同じ状況なら同じことを行ったことでしょう。それゆえ、神自身がイエスの形をとって人間として来られ、—私たちが行った間違っただけのために、罪の代価を払い、それをご自分の命を持って払われたのです。そして神がイエスをよみがえらせ、永遠のいのちへと呼びさまされたのなら、神は私たちをもよみがえらせてください。これが第二の誕生です。私たちはイエスを受け入れ、自分たちの罪から立ち返り、イエスに信仰を置き、十字架上で私たちのためになされたことを受け入れるのです。

クリスチャンはその意味していることをあまりよく考えずに「個人的な救い主」というきまり文句を使っています。「個人的な救い主」が本当に意味することは、イエスを個人的に受け入れる必要があるだけでなく、もし私がこれまで罪を犯した唯一の人であったとしても、神は下ってこられ、ただ私やあなたのために十字架に掛からなければならなかったということなのです。私たちは個人的にイエスを受け入れなくてはなりません。なぜなら、イエスが十字架に向かわれた時、私たちがあたかも罪を犯した唯一の人であるかのように、すべて人が行った悪事のために彼が十字架に向かったからです—そして悪いことを行わなかった人は誰一人いないのです。これが第二の誕生です。私たちは神に罪を赦してくださいるように求め、イエスに信仰を置きます。また罪から離れ、キリストと共に死ぬための力を彼に求めて、新しい人となるのです。

このため、私はもはや誰かの娘や誰かの妹と寝ることがなく、このためにコカインを鼻に持ってこないのです。第二の誕生のゆえです。私が最初に生まれた時、それが私のいのちであり、私のいのちは私の**死**でした。

カインとアベルのように、長子はいつも創世記において古い性質のことを教えています。カインが追放された時、神が言ったことを覚えているでしょうか。『罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。』（創世記 4章 7節）罪は私たちが恋い慕います。罪の恋い慕うこととは何でしょう？私たちが地獄へ陥れることです。罪は永遠に私たちが地獄に陥れようとしています。「だが、あなたは、それを治めるべきである」とはどのようなことなのでしょう？私たちが第二の誕生を経験するまで、罪を治める方法は何もありません。

一方で、長子は絶えず第二子を嫌います。古い性質はいつも新しい性質を憎みます。イシュマエルは絶えずイサクを嫌い、最終的にエサウはいつもヤコブを嫌います。

苦い根

『そのためには、あなたがたはよく監督して、だれも神の恵みから落ちる者がないように、また、苦い根が芽を出して悩ましたり、これによって多くの人が汚されたりすることのないように、また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がないようにしなさい。あなたがたが知っているとおりに、彼は後になって祝福を相続したいと思ったが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変えてもらう余地がありませんでした。』(ヘブル 12 章 15 節-17 節)

これはクリスチャンに対する警告です。ただ単に救われていない人たちに警告されているものではなく、クリスチャンに——特に**肉的な**クリスチャンに対して警告されています。問題なのは、私たちが肉的なクリスチャンであるかどうかということです。肉的なクリスチャンとは、過去に救われはしたが、古い性質の特徴を持ちながら生きている人のことです。それは箴言に言われているようなことです。『心の墮落している者は自分の道に甘んじる』(箴言 14 章 14 節)

肉的なクリスチャンは、自分の相続権を軽蔑し、その祝福を捨て去る者です。それはリバプールからダブリンまで泳ぐような人で、溺れ始めたとき、その最中に神がその憐みにより、体を浮かせ、ダブリンまで泳げるように救命胴衣を与えられたのに、それを脱ぐような者です。これが肉的なクリスチャンです。

『だれも神の恵みから落ちる者がないように』と私たちはヘブル人への手紙で言われています(ヘブル 12 章 15 節)。不品行な者となつてはいけません。そしてここでは特に“苦い根”について警告されてあります。なぜでしょうか？なぜならエサウはヤコブに対して苦い根を持っていたからであり、それは主に彼の責任でした。“苦い根”——誰かに対する憤りはその**対象となっている人よりも**、自分自身を破滅させます。復讐は主のものです(申命記 32 章 35 節)。キリストの裁きの座において、その人たちになされることに比べると、私たちの出来ることは何もありません。ヤコブはそこにいて、エサウは彼に対し苦い根を持っていたのです。私たちが墮落させるひとつのものは苦い根です。私たちが誰かに対してどんなに憤りを持っていたとしても、神は私たちが非難することを山ほど持っています。しかし一方、エサウは不品行の者で、一杯の食物と引き替えに自分の相続権を売ったとあります。

愛する妻を持ち、子どもを持ち、奉仕を持っている人で——牧師たちでさえ——姦淫を一度行い、また不倫を一度行い、すべてを破壊してしまう人がいます。このような人は家族を

失い、結婚関係を失い、評判を失い、奉仕を失い、ただの一回ですべてを失ってしまいます。それは罪のつかの間の喜びの実例です。肉的なクリスチャンはその祝福を一回の出来事、またたったひと振りですべてを失ってしまいます。後になってエサウは祝福を相続することを望みましたが、退けられました。悔い改めない背教者と未信者の人たち——第一の誕生と長子エサウのような特徴を持つ人たち——にはイエスとの関係を心の底から望むときがやってきます。心の底からそれを望むときがやってくるのです。彼らはそれを求めますが、その時にはすでに遅すぎるのです。

この第二の誕生をすでに経験したが、いまだに長子に属している人に対して聖書は『今は恵みの時、今は救いの日です』（2 コリント 6 章 2 節）と語りかけています。もしそのような人が今夜死んでしまえば、相続権を永遠に失ってしまい、永遠とはとても長い期間です。何百万年経っても刑期を終えられない地獄のような永遠をただ想像してみてください。そこには終わりはありません。ある時が来て、人々は相続権を望み、切望し、それを得るためにあらゆることでも行うようになりますが、結局相続権を得ることはできません。実際、ヘブライ人預言者であったエレミヤは、人々は熱心に主を求めるが、終わりの日に主を見出すことはできないと書いています。それはバビロン捕囚時のユダヤ人たちのようで、エレミヤやエゼキエルが正しかったと気づき、生き残りの幾人かは神を熱心に探し求めたが、時はすでに遅く、見い出せなかったのと同じことです。終わりの日はそのようになります。人はイエスの福音を退け、今、神の赦しを断ることができます。また信者であっても自分の相続権を軽蔑し、肉的に生きることもできます。しかし時が来て、今自分が持つことのできたはずのものを得るためにどんなことでもする時が来ますが、彼らはそれを得ることができないのです。

もし誰かがそのような生き方をしているなら、古い性質の中で生活しているなら、それはその人が肉的なクリスチャンであるか、教会に来ている背教者か、または最初から救われていない人（一度も新生していない人）であり、時が来ると相続権を欲しがようになります。時が来ると他の人が持っているものを欲しくなり、妻は自分の夫が持つものが欲しくなり、子どもは両親の持つものが欲しくなり、夫が自分の妻の持っているものをほしくなる時がやって来ます。その人たちは相続権を欲しますが、手に入れることはできないのです。彼らは今それを得ることが出来ます。長子はいつも第二子をさげすみます。

最初の性質に属す人たちはクリスチャンが好きではありません。実際問題として、私の中の古い性質は新しい性質が好きではありません。私の中の古い人は新しい人を好んでいません。私の中のイシュマエルはイサクが好きではありません。私の中のエサウはヤコブが好きではありません。私の中のエフダはヨセフが好きではありません。聖書で私たちが新しい名を与えられると書いてある理由のひとつはこれです（黙示録 2 章 17 節）。私たち

が生まれたとき、ひとつの名前が与えられました。私たちが新生するとき、私たちにはもうひとつの名前が与えられるのです。これがヤコブに起こりました——彼の名前は主に会った後、“イスラエル”へと変えられました。彼が古い性質のように振る舞うとき、再び聖書は彼の名を“ヤコブ”と呼びます。同じように私は新しい名を受けました。私には両親から与えられた名前——“ジェームズ”、父親の祖父から来た名前がありますが、私の名前はいのちの書に書いてあります。私たちが生まれたときひとつの名前が与えられ、新生するときもうひとつの名前が与えられるのです。

相続権（長子の権利）

古い性質はエサウであり、エサウはいつも新しい性質を嫌います。エサウは違った物の観点を持っているのです。ただ新しい性質だけが——第二子だけが相続権を継ぐことができます。第二に生まれた者だけがその祝福を得ることができます。

『きらわれている妻の子を長子として認め、自分の全財産の中から、二倍の分け前を彼に与えなければならない。彼は、その人の力の初めであるから、長子の権利は、彼のものである。かたくなで、逆らう子がおり、父の言うことも、母の言うことも聞かず、父母に懲らしめられても、父母に従わないときは、その父と母は、彼を捕らえ、町の門にいる町の長老たちのところへその子を連れて行き、』（申命記 21 章 17 節－19 節）

エサウは長子の権利を失いました。長子の権利には二倍の分け前、二倍の祝福、またその氏族の指導的地位が含まれていました。これがエサウの場合に軽蔑されたものです。二倍の祝福がありますが長子はそれを得ることはありません。なぜなら、私たちすべてが自分の御父をさげすみ、すべてが彼から離れ去ったので、その祝福は第二子に来るからです。生まれつきの人はその祝福を得られません。生まれつきの男や女は相続権を継ぐことができないのです。

兄弟の争い

今から読む箇所の中には、『ユダヤとアラブの和解』の中で私たちが教えている、中東で今日起こっている預言成就の確実なしるしが書かれてあることを繰り返し述べておきます。ニュースを見るとき、今中東で起こっていることはまさに聖書があらかじめ起こると告げていたことなのです。そしてこのふたりの兄弟の争いは歴史において今日成就していません。

『すると主は彼女に仰せられた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。』

…ユダヤ人とアラブ人です。中東での今日起きている争いは兄弟間でのものです。

『一つの国民は他の国民より強く、兄が弟に仕える。』
出産の 때가満ちると、見よ、ふたごが胎内にいた。最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それでその子をエサウと名づけた。』

“赤”に注目してください。“アダム”——“アダマー”そして“アドム”の関係を覚えているでしょうか。それは生まれつきの人であり、アダムの子です。

『そのあとで弟が出て来たが、その手はエサウのかかをつかんでいた。』

ヘブライ語での“かかと”は“アーケブ (*aqeb*)”であり、そこから“ヤアコブ (*Ya'aqob*)”——“ジェイコブ (*Jacob*)”という名前が来ています。それは実際“奪い取る者”ではなく、それは後から言い換えられただけです。その名前は“かかと”から来ています。ヤコブは兄弟のかかをつかんだのです。

『そのあとで弟が出て来たが、その手はエサウのかかをつかんでいた。この子どもたちが成長したとき、エサウは巧みな猟師、野の人となり、』

彼は父親に猟の獲物を持ってきていました

『ヤコブは穏やかな人となり、天幕に住んでいた。イサクはエサウを愛していた。それは彼が猟の獲物を好んでいたからである。リベカはヤコブを愛していた。』(創世記 25 章 23 節–28 節)

これはいつでも大きな過ちです。私たちは神さまがそうであるように、自分の子どもたちを等しく愛すべきです。しかしもうひとつのことは、子どもたちはその誕生により、墮落した性質を受け継ぎ、それが環境によって強化されるということです。ヤコブが自分の兄弟から奪おうとしていたとき、母親は彼に企みを入れ込んでいました。彼女は兄弟ラバンのように悪賢く、企み深く、陰謀を企てる女であり、それを自分の子に教え込んだのです。

私が自分の子どもたちを見るとき、特に私の息子が何か明らかに悪いことをするとき、彼がどこからそれを受けたか私は知っています。墮落した性質は世代から世代へと受け継が

れていきます。私たちはそのように生まれるのであって、それゆえ新生することが必要なのです。驚くべきことに自分の子どもを虐待する 99 パーセントの人たち、その人たち自身が親から虐待を受けていた人です。大半のアルコール中毒者はアルコール中毒者の子どもです。大半のギャンブル中毒者はギャンブル中毒者の子どもです。人は長子の特徴、生まれつきの人の特徴を持って生まれてきます。

『さて、ヤコブが煮物を煮ているとき、エサウが飢え疲れて野から帰って来た。』

『エサウはヤコブに言った。「どうか、その赤いのを、そこの赤い物を私に食べさせてくれ。私は飢え疲れているのだから。」それゆえ、彼の名はエドムと呼ばれた。』(創世記 25 章 29 節-30 節)

最初にエサウが来て、言いました。「私は飢えて、疲れている。そこの赤い物を食べさせてくれ」それゆえ彼の名は“エドム”——“赤”と呼ばれました。しかしながら、彼は母の胎から出て来たときから赤かったのです。“赤”は“アダム”から——“アダム”、生まれつきの人から来ます。古い人、古い性質はいつもこの世のものを求めます。生まれつきの人にとっては自然なものにいつも引き寄せられます。“赤”は“赤”を求めます。彼は赤く生まれ、土は赤であり、「その赤い物をくれ」と言ったのです。ヘブライ語本文でのこの“アダム”の存在、その使われ方は、エサウがただ自分の古い性質を追い求めていることを示しています。私たちもそれぞれ生まれつきの性質を持っています。長子は絶えず、自分の知っているものに傾きます。長子は聖くない怒りや敵意、憤り、許さない心、情欲、高慢を知っています。

『するとヤコブは、「今すぐ、あなたの長子の権利を私に売りなさい」と言った』

ヤコブはエサウの長子の権利を、だまして巻き上げはしませんでした。彼は「それを私に売りなさい」と言ったのです。

『エサウは、「見てくれ。死にそうなのだ。長子の権利など、今の私に何になろう」と言った。』

エサウは赤いものに駆られたため、自分の長子の権利をさげすみました。その赤い人は赤い物を追い求めました。ただそれだけしか知らなかったからです。

『それでヤコブは、「まず、私に誓いなさい」と言ったので、エサウはヤコブに誓った。こうして彼の長子の権利をヤコブに売った。ヤコブはエサウにパンとレンズ

豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり、飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子の権利を軽蔑したのである。』（創世記 25 章 31 節－34 節）

もちろん、彼はすべきでない事柄を後にたくさん行いました。私たちが自分の相続権を軽蔑するやいなや、両親の心を痛めることになります。

私が最も多く手紙を受け取る内容のひとつは、救われていなかったり、背教した子どもたちを持つクリスチャンの両親からのものです。彼らは自分の相続権を子どもに譲ろうとしますが、子どもたちがイエスさまから離れ去ってしまいます。これは何と悲しいことでしょうか。大抵の場合、子どもたちは帰ってきます。聖書は『若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。』（箴言 22 章 6 節）と語っています。大抵の場合、彼らは戻って来るのです。問題なのは、子どもたちがどのくらい不必要な失敗を人生で犯すか、また戻って来る前にどのくらい両親と自分自身に対して不必要な悲しみを引き起こすかということです。このことは私の胸にぐさりと刺さります。なぜなら私には未信者の男性と結婚した妹がいるからです。それは私を毎日悩ませます。私の子どもが墮落してしまうなんてことがありませんように。私たちはエサウに起こったことを見ていきましょう。

私たちの中の長子

文字通りのヘブライ語本文はむしろ「それを飲み干させてくれ」とここでは書いています。生まれつきの人には自然に引かれるものを飲み干してしまいたいと思います。ここで長子エサウ——私たちの中の救われていない部分、古い性質を見ていきましょう。（聖書的な心理学は世俗のものではありません）彼に見られるひとつ目のことは、即座の喜びを求める者だということです。長子——古い性質、生まれつきの人——は即座の喜びを求めます。彼はそれを欲しがり、すぐに欲しがります。彼女はそれを欲し、今欲しがります。これは遊園地にいる子どものようなものです。子どもたちは最初に何をしたいのかわかりませんが、今すぐやってみたいのです。古い性質——生まれつきの男／生まれつきの女の本能は即座の喜びに向けられています。

私たちが肉的なクリスチャンを見ると、その特徴の最初のひとつは即座の喜びを探し求める者であるということです。「私たちは大きな教会が欲しい。そして今それが欲しい」と言うような人たちです。それゆえ彼らは、その時流行っている策略や、何らかの流行、プログラムを用いて大きな教会を作れると考えます。彼らは流行が終わってしまうまで大きな教会を持つかもしれませんが、終わってしまうと教会自体が無くなってしまいます。固いものの上にゆっくり建て上げられている小さな教会は、すぐに大きな教会になることは

ありませんが、大きくなる時は大きくなるのです。

クリスチャンたちが流行を追い、何かの策略について行っているなら、それが肉的なクリスチャンのしるしであり、古い性質の中で生きている人たちの特徴です。誰か指導者がすべての流行、すべての流行りを追いかけているなら、それは第二子ではなく、長子です。散発的に起こる神の御業をひとつでも挙げてみてください。そこにはある“離陸点”があったかもしれませんが、基礎となるものが相当に存在したのです。イエスの弟子訓練は、イエスが来られる数年前からのバプテスマのヨハネによる弟子訓練でした。神は基礎を据えていました。それは時間が掛かります。ダビデ王は彼の帝国が拡大する前、長い年月を荒野で過ごしました。しかし、古い性質は即座の喜びを求めるのです。

したがって、このような人たちは肉的に振る舞います。「それを飲み干させてくれ」「それ良さそうだな。もらっておこう」おそらくそのような物は決して良くはありません。このような人たちを見るとき、彼らが肉的なクリスチャンであると分かります。救われていない人たちは我慢する事が出来ません。新生していない人にとって、“赤”は“赤”を求めるのです。彼らは生まれつきそうなのです。彼らはそれくらいしか分からず、長子として生きるほか基準を持っていません。しかし信者は長子として生きてはならず、第二子として生きるべきです。私たちが即座の喜びを要求し始めるとき、私たちは自分の相続権を軽蔑し、その祝福を捨て始めています。

最も成功している教会——アメリカのカルバリーチャペル運動、ニューヨークのデイビッド・ウィルカーソンの教会、イタリアのアッセンブリーズ・オブ・ゴッドなど——を見ると気付かずにおれないのが、彼らは何であれ非聖書的なものは取り除くということです。彼らはベニー・ヒンを禁じ、モーリス・セルーロ (*Morris Cerullo* 借金から逃れられる「奇跡のハンカチ」を 25 ポンドで売り、セール中にはそれを安い金額で売るような人物) を禁じ、トロントを禁じます——これらのくだらないものは信じていないのです。彼らは即座の喜びを求めず、基本的なことを求めています。伝道や弟子の訓練、祈りなどです。その後彼らの教会は大きくなり、大きいままであり続けます。流行が終わってしまうと、耳をくすぐるものを探しに人が去っていくような所ではないのです。

『信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。』(ヘブル 11 章 24 節—26 節)

先延ばしにされた祝福

新しい創造はいつも将来の祝福に目を向けます。モーセはこの世における喜びを求めませんでした。彼はメシアに目を向けていたとあります。イエスを望みとしていたのです。

『信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。』(ヘブル 11章8節-10節)

アブラハムには土地が約束されていましたが、彼は生きているうちにそれを求めようとしませんでした。長子、古い性質は即座の喜びを求めます。

「神の国は今」という神学はどのようなものなのでしょう？肉的なキリスト教です。再建主義運動、勝利主義、支配主義——すべてが肉的なキリスト教です。『柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから』(マタイ 5章5節)、これはイエスが戻って来るときのことです。地を受け継ぐのは確かなことですが、それは**イエスが戻って来られるとき**なのです。今、完全な意味において、それを所有しようと思っている人たちがいます。そんなものは忘れてください！今の地は神の裁きの下にあります。しかし肉的なクリスチャンは今満足を欲するのです。

ヘブル 11章にある本当の信仰の例は、先延ばしにされた祝福を求める人たちのことです。アブラハムはそれを約束されていましたが、先延ばしされた祝福に目を向けていました。モーセは約束を受けていました！モーセは、パロの息子として、パロの娘を通してすべてお膳立てされた状態で受け取ることもできました。彼は祝福を持つこともできたのです。ヨセフスの古代史に記されているモーセの世俗の歴史は驚くべきものです。モーセのエジプトでの地位はヨセフと同様のものでした。彼は有力者だったのです。モーセは祝福を受けることができました。祝福を今得ようとするのは肉的なクリスチャンです。

多くの悪いものがアメリカから出てきました。その中には“悪い”ものでさえなく、偽のクリスチャンたちさえ含まれています。合衆国から出た真実なクリスチャンについて多く語られないのは残念なことです。アメリカから南アメリカに渡った宣教師の中でジム・エリオット (*Jim Elliot 1927-1956*) と呼ばれる人がいます。彼と他の5人はインディアンによって殉教の死を遂げました。彼の妻、エリザベスは夫を殺した同じ部族に対して宣教師と

してその後も留まっていた。ジム・エリオットは言いました、「失うことの出来ないものを得るために、保つことのできないものを諦める人は愚かではない」

「おいクリスチャンたち—お前たちは飲みにも行かないし、ギャンブルもしない。何が楽しいんだ！」と人は言います。私たちはたくさんの楽しみを持っています。しかしそれがあなたの望みを置いているものなら、自分と共に持つことはできません。死ぬときには死ぬのですよ。人間の死にとって重要なのは、裁きの後のことです。失うことの出来ないものを得るために、保つことのできないものを諦める人は愚かではありません。本当に愚かな人とは、クリスチャンでない人であり、時が来ると彼らはそれを知るようになりますが、その時はすでに遅すぎるのです。長子は即座の喜びを求めます。人間の性質、人の心理、それはあなたの中にある古い男、あなたや私の中にある古い女です。私たちはふたつの名前を持っています。

ぜい弱性

創世記 25 章に見られるふたつ目の特徴は、彼が自動的に騙されやすい状態になっていたということです。人が自分の相続権をないがしろにし、第二子の代わりに長子として生き、肉体的なものに身を委ねるとき、自動的に騙される傾向があります。

私がジプシー（ヨーロッパに広く住み、昔から詐欺などで有名な民族）の牧師と話するとき、彼らは救われる以前のジプシーの文化がどうであったかを話してくれますが、彼らは詐欺師として金を稼いでいました。幼い子供の頃から、どのように人を騙すべきかを知っていたと彼らは教えてくれます。神の御霊がこのようなジプシーの間で働き、彼らの生活が変えられていくことを見るのは驚くべきことです。そして彼らがいつも言うのは、最も騙しやすい人は欲深い人であるということです。彼らは欲深い人を探します。なぜなら、そのような人から一番巻き上げられるからです。私たちが古い性質の中で生きるとき、第二子でなく長子として人生を生きるとき、私たちは自動的に騙されやすい状態に自分を置いています。

トロント（笑いのリバイバルが起こったとされる場所）に行ったことがありますか？あなたは騙されています。あなたはモーリス・セルーロに献金をしましたか？それなら騙されています。この異端を広めている教会に献金を捧げているのですか？あなたは騙されています。私たち全てはこの世に信頼を置かせようとしている悪魔に騙されてきました—それは十分大きな嘘です。しかし新生したなら、私たちはもはや騙されるべきではありません。長子はいつも騙される方向へ自分を持っていきます。

一方で、そのようなことに関わった人たちは金銭的に騙されました。お金が次の金と呼ばれ、お金を求める手紙が次から次へと続きます——彼らは正直なものに目を向けていません。彼らは第三世界や東ヨーロッパにいる貧しい人を助けようともせず、正当な奉仕や伝道活動のためでもありません。それは異端であり、いんちき、巧妙な詐欺です。

エサウの名前はエドム——“赤”へと変えられました。「地のもの」「生まれつきのもの」です。そして生まれつきの人は生まれつきのものを求めます。

“必要”と“欲求”を混同する

私たちが三つ目に見て行くものはこれです。「私はもう死にそうだ！死んでしまう！その赤い物をくれ！」エサウは疲れ、空腹になっていましたが、極度の疲労で死んでしまうことはありませんでした。餓死や、拒食症になることはなかったのです。長子の中にいるエサウ、アダムの生まれつきの人はいつも自分の根本的な必要を大げさに表します。これが“必要”と“欲求”を混同することです。

私たちが本当に必要なものはただ神の恵みであるときがあります。『わたしの恵みは、あなたに十分である』（2 コリント 12 章 9 節） テモテへの手紙には、神が食べ物と着る物を与えられたのなら満足すべきだとあります（1 テモテ 6 章 8 節）。公営住宅団地に住んでいる労働階級で、失業手当で生活しているだけでも、世界の 3 分の 2 の人たちより良い暮らしをしているということを私たちは知るべきです。中産階級の人たちは経済的に世界の 4 分の 3 の人たちよりも良い暮らしを送っています。

私は発展途上国に何度も行きましたが、人がなぜ“第三世界”と呼ぶのか理解できません。それは“三分の二世界”と呼ばれるべきです。アフリカやアジアの人たちで、イギリスの公営住宅団地に住みたいと本当に願っている人が実際にいます。彼らは落書きや犯罪などを気にしません。なぜなら、それは自分たちが我慢していることよりもずっとましだからです。大半の人はそれらの国で出くわすことを信じられません。これは私の国での都市部の失業者の先行きを軽視しているわけではありませんが、ただこれらは比較できないことなのです。比べることすらできません。

長子はいつも自分の根本的な必要を大げさに表します。「それが必要なんだ！」「その策略がいる。パソコンに最新のものが必要なんだ！」私はそこに正しい必要が無いと言いたいのではなく、欲求は必然的に間違っているとでも言いたいのでもありません。貪欲は別の話だということです。貪欲は罪です。そして人が貪欲になり始めると、罪は罪を呼びます。誰かが他人の妻を欲しがり始めると、次に起こることはそうです、自分の妻に満足しなく

なります。次に起こるのは不倫や姦淫、その類のものです。食欲は他の罪を引き起こします。人は富を欲しがります。聖書はお金があらゆる悪の根だとは言ってはならず、「金銭を愛すること」があらゆる悪の根と言ひ、それを追い求めたために多くの者が信仰から離れてしまったと書いているのです（1テモテ 6章 10節）。

イエス・キリストの教会が物質主義の時代の中に浸っているときほど、物事が歪んでいく時代はあるでしょうか。物質主義的な社会において、私たちが言うべきなのは「物質主義は解決策ではない」ということであって、物質主義を謳歌するような行為を行わず、すべての人に有益な証をすべきではないのでしょうか。テレビには次々と嘘つきが出てきて、私たちに「名を挙げて要求せよ」などの教えを教え、物質主義の時代への私たちの証をまさに壊し、私たちが人々と同じだということを見せてしまっています。実際、本当のクリスチャンでないという点を除けば、クリスチャンとして彼らはもっと悪く見えます。彼らこそ肉적인クリスチャンです。それは長子であり、エサウの子たちです。彼らは自分の相続権を軽蔑し、今それを望み、先延ばしにされた祝福を望まず、『柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから』（マタイ 5章 5節）という言葉を望まず、「神の国は今」を欲し、繁栄を今受けたがり、今それを欲しがります。長子はいつも自分の根本的な必要を大げさに表します。「死にそうなんだ！」

おかしく聞こえるかもしれませんが、私が神学校に行ったとき、女性の学生の 50 パーセントが、神学校に通う第一の理由をクリスチャンの夫を見つけるためだと認めていました。「ここでひとりを見つけられなかったら、どこで見つけられるのでしょうか？」彼らの必要に見合う人はひとりしかいなく、それは彼らの夫ではありません。ある人の夫は、その人が人生において神の器である度合いまでしか、自分たちの必要を満たすことができません。妻は、彼女が神の器である度合いまでしか、夫の必要を満たすことができません。しかしある人の夫が“ヤコブ”ではなく、“エサウ”であれば、必要を満足させることはできません。その人が肉적인クリスチャンだからです。分かります、彼らがひとりの男の人を必要としていることは分かるのです。ですが問題はどの男の人かということです。結婚したいと思う自然の欲求ですか？理解出来ます。出産可能年齢は真実です。ですが、ブラザー・アンドリュー（冷戦の最中に共産主義国に聖書を密輸したことで有名なクリスチャン）のニューズレターを一冊読んでみてください。強制労働所にいるクリスチャンの話を読んでみてください。彼らも根本的な必要は持っていることでしょう。

「私は情欲に駆られているんです！」「私はクリスチャンになる前にこのようなことや、あのようなことをして妻が欲しいんです！」「聖書に情欲に燃えるくらいなら結婚したほうがましだと書いてあるじゃないですか！」と言われるでしょう。それは真実で、聖書は確かにそう語っています。しかし、結婚すれば誰かの情欲の問題が消え去るという考えは

どうなのでしょう？それは真実ではありません。まず自分の情欲の問題を対処してから、次に結婚してください。誰かの奥さんや、誰かの彼氏がどれほど格好良いかは私には気になりません。このような人の問題は単に生物的な衝動ではなく、罪なのです。そのようには物事は解決しません。このような人たちは、罪の対処されていないどんな妻や夫にも満足することはできません——罪を対処することこそが根本的な必要です。しかし“赤”は“赤”に行きます。「いいからそれを与えてくれ！」

歪んだ価値観

四つ目に見ていくことは、エサウが歪んだ価値観を持っていたということです。第二子はいつも**神**が評価するものを高く評価します。第二子はいつも神が最も重要だと定めたものを大切にするのです。しかし長子は違います。エサウはずっと歪んだ価値観を持っています。「長子の権利なんて、何の意味があるんだ」「この新しい誕生なんて何が良いんだ」「この第二の誕生の何が良いんだ？」「楽しもうじゃないか！」「セックスをしたい！」「楽しく過ごそうじゃないか！」「こんなもののどこが良いんだ」「この人生である場所にたどり着きたい！」伝道者の書には誰かが何かを成し遂げても、それをしなかった人と同じ死んだ状態に行き着くと書いてあります（伝道者 3 章 19 節–20 節、9 章 2 節）。『結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。』（伝道者 12 章 13 節）

「天国とかイエスのこととか——今の自分にとって何が良いんだ？」「毎日、毎週、生活するためにあくせくして、難しい生活から楽しみを見出そうとしてるんだ」と言う人もいるかもしれませんが、自分の生活が困難だと思うのなら、私とナイジェリアに来てみてください。そこで困難な生活を見せてあげましょう。自分の赤ん坊に食べ物を与えられない母親や、イスラム教徒によって迫害されているクリスチャン、そのような困難な生活を見せてあげます。私は自分の首が痛むことに文句を言っていますが、それと同じ時にサウジアラビアのクリスチャンたちの首は切り落とされているのです。

エサウはいつも自分の価値観を歪めます。肉的なクリスチャンはいつも歪んだ価値観を持ち——神が最も評価するものを評価しません。神の最も評価するものは今から 100 万年も続くものなのです。

第一の質問は「これは今から 100 万年経っても意味があるだろうか」であるべきです。主が先に来られない限り、死の現実自分たちが愛している人を切り離してしまいます。夫であれ、妻であれ、両親であれ、子どもであれ——イエスが先に戻って来られない限り、戻って来られるかもしれませんが、死は私たちが別つこととなります。当然ながら、もしあなた方がクリスチャンなら、自分の家族と永遠に離れ離れになることはありません。自

分の夫や妻、子どもと離れなくてもいいのです。彼らがクリスチャンであり、あなたがクリスチャンであるならもう一度再会することができます。これは真実ですが、これが相続権なのです。誰でも、この世に望みを抱き始める人は、この相続権を軽蔑し始めています。

結婚はこの地上でのものです。その関係は天においても続きますが、それは結婚関係ではなく、キリストにあってひとつとなります。今結婚してなければ、これから 100 万年後に何か問題があるのでしょうか？結婚することは至高の宝ではありません。長子は**一時的な**価値を持つものを評価し、第二子は**永遠の**価値を持つものを評価します。古い性質は**消え去るもの**に価値を見出し、新しい性質は**永遠に続くもの**に価値を見出します。誰かが何らかの関係を持つことを望んでいるのでしょうか？何よりも価値のある唯一の関係は永遠に続く関係です。

私は神に感謝しています。それは今から 100 万年、10 億年経ったとしても、最初の創造のためでなく、第二の創造のために妻と子供と一緒にいられるのですから。これが私の相続権であり、イエスが十字架で自分のいのちを私の罪のために明け渡され、私に永遠のいのちを与えるために死者からよみがえられたときに譲り受けたものです。これが私の相続権であり、私はこの相続権をさげすみたくはありません。

他の人を責める

『エサウは言った。「彼の名がヤコブというのも、このためか。二度までも私を押しつけてしまって。私の長子の権利を奪い取り、今また、私の祝福を奪い取ってしまった。」また言った。「あなたは私のために祝福を残してはおかれなかったのですか。』(創世記 27 章 36 節)

「彼は二度も私を騙しました！」違います。二度目はエサウが自分の相続権を軽蔑したから起きたのです。しかしヤコブがしたことが正しかったのでも、そのやり方が正しかったわけでもありません。ですがヤコブはエサウを騙したのではなく、エサウがそれを軽蔑し、それを売ったのです。その後、彼は相続権を熱心に求めたが、得ることはできなかったとあります。長子であるエサウ、生まれつきの男／生まれつきの女はいつも、自分の人生に引き起こした失敗について、**他の人**を責めます。

「私の母はアルコール依存症で、父親が出ていったのです！」そうかもしれません。しかしそれは長子なのです。第二子についてはどうなのでしょう？私たちが新生した時、私たちには新しい父ができました。長子——古い性質はいつも自分の罪の結果について他の人

を責めます。

エサウは決して自分の過失を認めることをしません。それはいつも、自分の決定が引き起こした結果について責任を取ろうとしないのです。未信者はそのようであり、そうせざるを得ません。それが彼らの性質です。“赤”は“赤”に向かいます。クリスチャンには分別があるべきですが、肉的なクリスチャンはそうではありません。もしかすると分別があるかもしれませんが、そのような生き方をしていないのです。あなたは長子のように生きているのでしょうか？それとも第二子のように生きているのでしょうか？

それでも父は戻って来ることを望む

『またこう話された。「ある人に息子がふたりあった。弟が父に、『おとうさん。私に財産の分け前を下さい。』』と言った。それで父は、身代をふたりに分けてやった。それから、幾日もたたぬうちに、弟は、何もかもまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して湯水のように財産を使ってしまった。何もかも使い果たしたあとで、その国に大ききんが起り、彼は食べるにも困り始めた。それで、その国のある人のもとに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって、豚の世話をさせた。』

ユダヤ人の背景から言うと、これは非常に汚れたことでした。豚はコシェルではない（きよくない）動物です。

『彼は豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいほどであったが、だれひとり彼に与えようとはしなかった。しかし、我に返ったとき彼は、こう言った。『父のところには、パンのあり余っている雇い人が大ぜいいるではないか。それなのに、私はここで、飢え死にしそうだ。立って、父のところに行って、こう言おう。「おとうさん。私は天に対して罪を犯し、またあなたの前に罪を犯しました。もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。雇い人のひとりにしてください。』』こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとに行った。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした。息子は言った。『おとうさん。私は天に対して罪を犯し、またあなたの前に罪を犯しました。もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。』ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い着物を持って来て、この子に着せなさい。それから、手に指輪をはめさせ、足にくつをはかせなさい。そして肥えた子牛を引いて来てほふりなさい。食べて祝おうではないか。この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。』そして彼らは祝宴を始めた。』

(ルカ 15 章 11 節－24 節)

ユダの手紙で言われているように、教会の中にいる背教者は二度死んでいます。そのような人は霊的な死からいのちに移り、その後再び死んだのです（ユダ 12 節－13 節）。

もし誰かがこのような状態なら、遺産を今欲し先延ばしにされた祝福を待てないなら、またそれが消え去らず永遠に保つことができる時まで待てないのなら、そのような人は豚と一緒に食べるような状態に行き着きます。しかし父親はそれでも彼らを愛し、今戻って来ることを望むのです。

結論

この例えには多くの側面があり、そのひとつは神から離れ去ったユダヤ人がもう一度戻って来るということを教えています。もうひとつは墮落した人の一般的な性質です。アダムはそこで、その時に欲しがっていました。彼はいのちの木の实を食べようとはせず、それを自分の方法で望みました。善悪の知識の木の实から取って食べたのです。一方でこれは背教者についても教えています。古い性質は今欲しがります。それを保つことができないとしたらあなたにとって何の意味があるでしょうか？あなたが保つことができるときだけそれは良いものなのです。これが相続権です。心の墮落している者は自分の道に甘んじます（箴言 14 章 14 節）。自分の道とはどのようなものなのでしょう？肉的なクリスチャンの道とはどのようなものなのでしょう？肉的な教会の道とは？彼らは今それを望みます。そのような人たちは即座の喜びを要求します。“赤”は“赤”を求めるのです。

第二に、そのような人たちは騙されやすい状態になっています。それゆえ、人々はトロントに行き、そのようなものに騙されるのです。

彼らは自分の根本的な必要を大げさに言い表します。彼らは満足せず—むやみに欲しがるのです。彼らは自分の価値観を歪め、長く続かないものを欲しがります。彼らは永遠に続く遺産をもたらす相続権を軽蔑します。

さらにその上、彼らは自分の決定に対して責任を取ろうとしません。

長子は第二子を嫌います。エサウはヤコブを嫌います。私の中の古い性質は新しい性質を嫌います。あなたの中の古い性質は新しい性質を嫌うのです。未信の家族は私たちを好きではありません。“エサウ”は“アダム”であり—“アダム”から来ています。生まれつきの人です。彼はそのような人であり、そうであることしかできず、他のことはできません。彼

はその祝福を得ることができません。エサウは祝福を得られないのです。エサウは自分の罪のため、相続権を失ったため、それを得ることはできません。

もしあなたが新生していないのなら、もしあなたが自分の罪を悔い改め、救いのためにイエスに信頼していないのなら、神はあなたのために相続権を用意されています。神はあなたのために祝福を用意しているのです！神は“エサウ”を取り去り、“ヤコブ”となってほしいのです。神は長子を取り去り、第二子にしたいのです。イエスをあなたの救い主として受け入れ、聖書の教える通りに彼に従うと、あなたは今そうなることができます。

一方、その決断をしたが、“アダム”として生き続けている人はどうなのでしょう？彼らは未だに自分の道で一杯です。そのような人はどの教会にも心を決めず、外に出て、歪んだ価値観、歪んだ優先順位を持ち、即座の喜びを望むようなこの世的で救われていない人たちのように生きています。その人たちのしていることは自分の相続権を軽蔑することに他なりません。時が来るとその人たちは相続権を探し、心の底から探しますが見つかることはできないのです。

私の言っていることはおかしく聞こえるかもしれませんが。あなたはまだその新しい人になっていないかもしれません。アダムの子であるかもしれません。新生していないのかもしれませんが。ある時が来て、私がイエス・キリストの内に持っている相続権を心の底から、**必死**に求める時が来ます。しかしそれをその時には見つけられないのです。**今**が定めの時であり、**今日こそ**が救いの日です。

神の祝福がありますように。